

国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



週報 パワー浜松ロータリークラブ

小さな歯車 地球を回す

RI 会長 ゴードン R. マツキナリー / 第 2620 地区ガバナー 中村皇積 / 会長 伊藤勝人 / 幹事 土屋公良
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC



第974回例会4月16日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3階 チェルシーの間
- 司会：堀内善弘 谷川修一 ■点鐘：伊藤勝人 ■週報：安間利広
- ロータリーソング：「夢のみずうみ」
- ゲスト：青少年交換プログラム 元 交換学生 齋藤真佑美様(旧姓知久)
同上 堤 奈央 様
米山記念奨学生 ヤオ ファンボさん

出席報告/スマイル報告

会員数 67 名 (内出席免除会員 1 名)
出席数 49 名 出席率 74.24%

スマイル提出者氏名掲載
伊藤会長、土屋幹事
青少年育成部会、高部会員

会長挨拶

今日は、私たちパワー浜松ロータリークラブ唯一の剣豪でもある、鈴木一広さんから依頼を受けました、黒紋付の着物にまつわる「憲法黒染め」のお話をします。

「憲法黒染め」は、憲法黒と言い、限りなく黒に近い茶がかった色です。一広さんが私に依頼をされた理由は、私が正倉院などの染色の復元を手掛けている、吉岡工房とのお付き合いがあり、「憲法黒」を染め上げることができるからです。

その吉岡工房をさかのぼりますと、室町時代から「足利将軍家」の剣術指南役をしていた「吉岡道場」にたどり着きます。吉岡道場といえば、かの有名な宮本武蔵が日本一の剣豪になるために、将軍家の剣術指南役であった吉岡道場当主を打ち破るため、決闘を申し込んだことでも有名です。決闘では指南役をはじめ、吉岡道場の血筋はことごとく宮本武蔵に敗れ、あの有名な最後の戦い「京都一条寺 下がり松の決闘」では、吉岡一門 70 人対武蔵 1 人という戦いの中で、まだ幼少だった最後の血筋も一刀のもとに武蔵に切り殺されてしまいます。

結果、吉岡道場は消滅します。しかし吉岡道場で染め上げていた「憲法黒草木染め」は、江戸時代になると、関東で剣を磨く人たちの間では大変な人気を呼び、「吉岡憲法黒」草木染めとして生き残りしました。そして、その吉岡憲法黒を染め上げられるのは、今は吉岡道場の流れを持つ京都伏見の「吉岡工房」だけなのです。都が京都に移って千年の時、「遷都千年」のイベントの 1 つ、源氏物語の登場人物が着た衣装を植物染めで表現したのも、吉岡工房でした。



幹事報告

- ① 4～6月会費についてご連絡します。口座振替を提携されている方は、今月 25 日に引き落とされます。お手数ですが前日までに残高のご確認をお願いします。請求書は例会後にオールパワーをしますので、必要な方はご活用ください。
- ② 募金のお願いです。日本のみならず、先日台湾で震度 6 強の地震が発生し、多くの被災した方達の生活再建が課題となっています。台湾東部地震災害に対する支援金は台日親善会議を通じて台湾東部のロータリークラブへ届く予定です。この後、募金箱を各テーブルへ順に回しますので、ご支援の程よろしくお願いたします。

委員会報告

- ゴルフ同好会 華岡会員
第 4 回 青空例会
第 2 回 静岡地区合同ゴルフについて
- 副幹事 藤田会員
次年度予定者会議のお知らせ

■ 『青少年交換プログラムについて』 担当/青少年育成部会

【青少年交換プログラムとは】

世界中のロータリークラブ各地区より派遣学生を選出し、他地区の学生と交換を実施。一年間それぞれの地区でホームステイにて生活をし異文化を学び相互理解を深めるプログラム。1929年ニースRC(仏)において最初の交換留学を実施。1972年国際ロータリー理事会において価値ある国際的活動として推奨され現在に至る。近年では年間8000人の16～18歳の高校生が参加している。

【当クラブでの実績】

- 2004-05 年度 塩田・鈴木年度
八田遊我さん ⇔ ホレル・エバンさん (カナダ)
- 2007-08 年度 原田・長谷川年度
知久真佑見さん ⇔ ブラッドリー・アディソンさん (アメリカ)
- 2010-11 年度 坂井・和浩年度
堀越徹哉さん ⇔ マッケ・セシルさん (ベルギー)
- 2012-13 年度 小澤・青山年度
堤 菜央さん ⇔ ルトガー・メイヤーさん (ベルギー)
- 2013-14 年度 松本・諸星年度
熊谷綾乃さん ⇔ ジュピラット・マリーヌさん (フランス)
- 2017-18 年度 長谷川・後藤年度 (浜松中 RC 派遣)
熊谷紗奈さん ⇔ 木下魁人さん (ドイツ)



卓 話【知久 真佑見さん】



英語が得意だったので迷わずプログラムに参加する。希望の英語圏の派遣が決まり、渡米当初はヒアリング力が不足し大変でした。ホストファミリーに恵まれ、月ごとのホストファミリー変更のルールを捻じ曲げて一年間お世話になることになったことありがたかった。帰国後、友人から「人が変わった」と指摘される。クラスの中心で、YES、NOをはっきりと伝えられる積極的な性格になり、その成果であると感謝しています。この経験を自身の息子にも体感させたいし、次子も交換プログラムに対して手伝えることがあれば積極的にサポートしていきたい。5年前に他界したホストマザーが「真佑見がベスト」と言ってくれたそうで感謝しています。一度ホストファミリーを訪ねてみたいと考えています。

卓 話【堤 菜央さん】



小学生のころから英語を学ぶ機会があり、中学に入ってから英語が得意でしたし、生活へのあこがれも強く、母の知人の紹介で知ったこのプログラムに応募した。この英語を活かしたかったが派遣先のベルギーはフランス語をはじめ3つの公用語がある特殊な環境。ホストファミリーとのコミュニケーションもとれず、学校での授業もわからず、言葉が通じない世界で孤独感を味わい深刻なホームシックと戦った。プログラムからのリタイアも考えたが、自身を奮い立たせ無我夢中でフランス語を勉強した結果、なんとか半年間でフランス語を習得することができた。この経験を通じて「準備の大切さ」を痛感。現在は育児と仕事にこの時の学びを生かして取り組んでいます。震災など日本で災害があるたびに心配して連絡をくれる友人が世界中にできたことも大きな財産となっています。